

令和3年1月8日

資料へのお問合せ先

奈良市教育委員会 教育部

文化財課 史料保存館

電話 0742-27-0169

## 史料保存館 企画展示

# おかげまいり —伊勢参宮と奈良町—

史料保存館では、保管史料を活用した奈良町の歴史情報発信に努めています。今回の展示では、江戸時代後期の奈良町にとって大きな出来事であった、文政13年（1830）のおかげまいりについて、伊勢神宮に向かう大勢の参宮者が押し寄せた街道（上街道）筋にあたる奈良町の町の記録等から「施行（せぎょう）」を中心に紹介します。また、地元奈良の町や周辺地域で古くから続く伊勢信仰に対する篤い信仰を示す史料として、平成30年に寄贈を受けた大安寺町の伊勢講関係資料を初公開し、紹介します。

### 1. 開催概要

- 会場** 史料保存館 展示室（奈良市脇戸町1-1）
- 会期** 令和3年1月13日（水）  
～令和3年3月31日（水）
- 開館時間** 午前9時～午後5時（入館は午後4時半まで）
- 休館日** 月曜日・祝日の翌平日（祝日は開館）  
2月12日（金）・24日（水）休館
- 入館料** 無料
- 展示解説** 史料保存館で、館員による展示解説を2回行います。約30分の予定。申し込みは不要です。
- [日時] ①2月16日（火）午後1時半～  
②3月21日（日）午後1時半～



史料保存館・奈良町にぎわいの家の場所

## 2. 展示の趣旨と見どころ

### ○おかげまいりと奈良町

江戸時代の後半は、社会が安定して、経済的にも発展し、その恩恵を受けた生活に余裕のある人々が国内の有名な社寺への参詣の旅に出かけるようになっていきます。その一方で、世の中では貧富の差が拡大し、生き辛さを感じながら暮らす一般庶民も多く存在していました。そのような風潮の中で、一時の息抜きを求めるように、約60年周期で数百万人の民衆が短期間に集団で参宮する「おかげまいり」とよばれる現象が起きました。

当時の奈良町は、東大寺や興福寺、春日社などの社寺に参詣する人が多く訪れる観光都市として、各地から多くの人々が往来する場所でした。また、伊勢神宮へ向かう街道（上街道）筋にあたることから、おかげまいりがおこった際には、かつてないほど大勢の参宮者が押し寄せました。参宮者の中には抜参（ぬけまいり）といって、親や主人の許可を得ないまま、旅行手形も持たず着の身着のまま家を出て伊勢神宮をめざした人々も多くいて、おかげまいりの目印である柄杓を差し出して、食べ物などの「施行（せぎょう）」を求めました。道中の町々では、「施行」のために参宮者への食事や宿泊の世話を行いました。

今回の展示では、江戸時代のおかげまいりの中で最大規模の文政13年（1830）のおかげまいりと奈良町での「施行（せぎょう）」について、上街道筋の元興寺町や井上町、奈良奉行所に近い東向北町の人々が書き残した町の記録の他、その年に刷られた奈良暦への書き付けなど史料保存館で保管する史料から紹介します。

また、伊勢参宮に重要な役割を果たした上街道について、伊勢参宮への道程を描いた絵図や奈良町絵図を基にした解説パネル、それから文政のおかげまいりのあった年に、上街道筋の奈良町の南口にあたる肘塚町（竹花町）に建てられた太神宮常夜燈を写真パネルで紹介합니다。

### ○奈良町周辺の伊勢講

奈良町や周辺の地域では古くから伊勢神宮への信仰は篤く、「伊勢講」を結成し、伊勢神宮へ参宮するとともに、町や村内に太神宮常夜燈を建てて交代で明かりを灯しました。地元奈良の人々がくらしの中で受け継いできた信仰のひとつ、伊勢信仰をもとに結ばれた伊勢講に関わる資料として、今回、平成30年に寄贈を受けた大安寺町の伊勢講関係資料を初公開し、紹介します。

## 3. 展示関連イベント

### にぎわいの家出張展示「タイムトラベル奈良町～おかげまいりー伊勢参宮と奈良町ー」

「おかげまいりー伊勢参宮と奈良町ー」展開催に合わせ、展示開催を多くの人に知ってもらうために、奈良町にぎわいの家において、展示に関連した史料の一部を出張展示し、あわせて史料保存館員による史料解説を行います。

日 時 3月6日（土） 午後2時～4時  
（館員による展示解説は午後2時から30分程度）  
会 場 奈良市中新屋町5 奈良町にぎわいの家  
費 用 無料  
申 込 不要

参加者へは会場でのマスク着用・検温・連絡先提供のご協力をお願いする予定です。

※展示解説・展示関連イベントは、新型コロナウイルス感染症予防のため、予定を変更する場合があります。

4. 告知方法 市ホームページ・twitter・関西文化.com・しみんだより1月号・チラシ配布・報道機関及び歴史街道推進協議会への情報提供、周辺施設への広報

### 展示予定史料

- (1) 大和巡りひとり案内図 寛政8年(1796) ※裏面絵図展示 表面写真展示



表面



裏面

京都書林の菊屋喜兵衛が寛政8年(1796)に作成した、奈良の案内図(版図)です。

表面は、京都から大和、伊勢などを巡る道程や名所などの案内記、裏面は、京都・大坂・伊勢・和歌山を含む道路図で、表と裏は対照して利用できるようになっています。

名所旧跡は薄茶色、道は黄色の色刷りで明示されており、この絵図から奈良町から山田町(伊勢神宮外宮・内宮所在地)までの行程をたどることができます。

- (2) 上街道常夜燈 文政13年(1830) 建立 (肘塚町(竹花町) 所在)

※写真パネル展示



左：昭和撮影  
奈良市史  
通史三  
p 284 掲載

右：令和2年  
(2020) 撮影

奈良町の南口にあたる肘塚町（竹花町）の上街道沿いに、おかげ参りが発生した文政13年（1830）に建立された常夜燈2基です。写真左側の石燈籠の竿の東面に「天照皇太神宮」、北面に「春日大明神」、南面に「金毘羅大権現」、その下の基礎の東面に「文政十三寅年霜月吉日 世話人 竹花町 八百屋左七（寄進者の屋号と名前を刻む）」、右側の石燈籠の竿の東面に「文政十三年庚寅五月」、南面に「金毘羅大権現」、基礎の東面に「世話人 竹花町中 石口嘉助（寄進者の屋号と名前を刻む）」の文字が刻まれています。本来は上街道をはさんで東西に1基ずつ建てられていたものが、近代に入ってから2基とも西側へ寄せられてしまったと伝えられています。

### (3) 文政十四年 奈良暦 南都陰陽師 山村左門 文政13年（1830）刷



奈良暦は、江戸時代に陰陽町在住の陰陽師によってつくられ、顧客へ挨拶回りの際の土産として配ったり、販売も行われました。奈良町の名産品のひとつに数えられています。

今回展示する暦は、おかげまいるのあった文政13年（1830）に刷られた文政14年の奈良暦です。

（文政13年12月10日に天保に改元のため、天保2年にあたる）

注目するのは表紙で、

「天保元しるし違／阿波国より始り伊勢大神宮江  
おかけと申、大坂より引続種々の幟其外いろいろ/  
目印を建、大勢参り所々方々御祓続之由ニテ候  
四国播州／摂州河州大参大混雑」と注記されています。

暦の持ち主がわざわざ書き残すほど、おかげまいるは、奈良町の人々にとって大きな出来事だったようです。

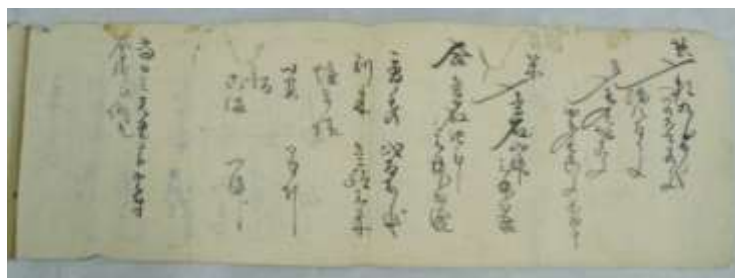
### (4) 井上町町中年代記 五番 江戸時代 井上町有 寄託史料 ※市指定文化財



町中年代記は、井上町の町記録で、延宝6年(1678)から安政3年(1856)の間におこった町内の出来事や取り決め事などが記されています。

文政のおかげまいりについては、井上町では文政13年閏3月5日から3月23日頃まで施行宿を提供し、町の会所では、毎夜50人ずつを宿泊させ、米持参の参宮者についてはその米を炊いてやり、みそ汁やおかずは町内でこしらえて提供したこと、4月末頃まで参宮者の姿をみかけたこと、4月5日頃より町内にて銭10貫文の施行を行ったことが記載されています。

(5) 文政十三庚寅四月 元興寺町内 天照皇太神宮おかげ施行集 文政13年(1830)



文政のおかげまいりの時に元興寺町内で行った施行についての記録です。

元興寺町内の41人の商人のそれぞれの名前と施行した品物などが書き連ねてあり、その総計は米壺石二斗三升五合、銀札九匁五分、銭八百文、香のもの二百五本、割木一駄三束、塩一俵、菜半斤、酒一升、ごま一升とあります。それらを元にして文政13年4月12日に元興寺町にたどり着いた参宮者に対して、一人あたりにぎり飯1個、香のもの一切れずつを施行したことが記されています。



(6) 萬大帳七番 江戸時代 東向北町自治会蔵 寄託史料 ※市指定文化財



正保2年（1645）から明治16年（1883）まで東向北町で書き継がれてきた町記録です。

東向北町では、奈良奉行所からの御触れによって、文政13年閏3月10日から14日まで5日間施行宿を提供し、234人もの参宮者を泊めたこと、米を持参したものには炊いてやり、持参しなかったものには、町内から米を集めて無料で食事を提供したこと、その際薪・柴や夜具なども各家から集めて提供したことが記されています。

(7) 文久二年 伊勢暦 文久元年（1861）刷 個人蔵 寄託史料



江戸時代に伊勢神宮と信者を取り持つ御師が、自分の得意先である旦那（信者）に挨拶回りの土産や初穂料に対する返礼として配ったのが、伊勢暦です。書かれている内容は、奈良町の名産品であった奈良暦とほぼ同じですが、他の地方で作られた暦よりも農作業に関係の深い内容が記載されているのが特徴です。今回、文久2年の折暦を展示します。

(8) 大安寺町伊勢講関係資料 江戸～現代

石燈籠入用帳	天保 15 年 (1844)	1 点
伊勢講中掛銭帳	元治 2 年 (1865)	1 点
伊勢講中掛銭帳	明治 5 年 (1872)	1 点
伊勢講中預ヶ金并ニ諸入費簿	明治 14 年 (1881)	1 点
金銭出入帳	明治 25 年 (1892)	1 点
伊勢講諸入費帳	明治 25 年 (1892)	1 点
	大正 10 年 (1921)	1 点
	昭和 25 年 (1950)	1 点
(伊勢講石燈籠) 電灯料金領収書綴		
	昭和 18～19 年 (1943～1944)	1 点



大安寺町地区では、伊勢講が営まれていました。江戸時代の天保年間から平成の時代に至る伊勢講の史料が残されています。講の諸経費、開催日、掛金集金などが記録した史料が木箱に収められていました。現在、大安寺町内には、太神宮常夜燈が2基残っています。このうちの1基は、天保 15 年 (1844) に講中から十輪院町石屋市五郎に石燈籠を発注して建立したものです。かつては、講員が交替で太神宮常夜燈に明かりを灯していました。